大学名：国立大学法人　宮城教育大学

ASPUnivNet の ４つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	１. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	2022 年７月申請の柴田町立槻木小学校、2023 年３月申請の東北学院中学校・高等学校の加盟申請の相談に応じることができた。2022 年 12 月申請の山形西高等学校は、2023 年７月に対応。
	２. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	2022 年度中に申請校でチャレンジ期間の学校が２校、キャンディデート校が３校あるので、それらの学校を実際に訪問して支援している。また、加盟している学校にむけて、個別の学校支援を行ったり、教員の校内研修や、教育委員会主催の研修に協力している。
	３. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや、ユネスコスクール東北ブロック大会を開催して、ESD/SDGs についての学習会や、生徒の研究発表会を開催している。2022 年 12 月 17 日（土）には、「2022 年度ユネスコスクール東北ブロック大会」を開催した。東北各地から小中高等学校あわせて 11 校の児童生徒が、探究型学習・課題研究の発表を行うとともに、８件のポスター展示があった。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	１. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムや、教育委員会、各学校主催の研修会や学校訪問を通して、大学の資源を活用して、資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなどを行うことができた。ただし、すべて要請ベースなので、熱心な地域や学校とそうでない地域や学校がある。
	２. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	大学からは ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムが主催する研修会を３回開催した。また、宮城県気仙沼市教育委員会や福島県只見町のユネスコスクール、などと協力して、地域で研修会やワークショップを開催することができた。
	３. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムとして、学校や地域で開発された実践事例や教材を集め、オンラインで公開している。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	１. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	東北地方 ESD 活動支援センターと共同で活動しており、東北地方 ESD 活動支援センターが主催し、地域のステークホルダーが参加する研修会でユネスコスクールの活動について紹介している。ただし、ESD/SDGs の普及啓発を目的としており、ユネスコスクールの告知広報であるとはいえない、
	２. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムおよび ESD 活動支援センターの研修会にユネスコスクールが参加していただくことで、学校や地域のステークホルダーを結びつける機会として

		いる。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	熱心に活動している教育委員会と連携が継続している。東北地方 ESD 活動支援センターのご支援のもと、青森大学 SDGs 研究センターや岩手県立大学とともに活動する場面はあるが、大学間の連携を促進できたとは言えない。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	比較教育学会や、日本学術会議のフォーラムで、ユネスコスクールの実践から得られた成果について報告発表した。しかし、国内外の多様なステークホルダーに広く知らせることができたとはいえない。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	パリユネスコ本部の主催する Teacher Education & Training Institutions for Global Citizenship Education and Sustainable Development, Change Initiative に参加したことがきっかけとなり、ベルギーの教員養成大学でユネスコスクールである UCLL University と交流を行った。2022 年 11 月に UCLL およびベルギーのユネスコスクールを大学生が訪問し交流した。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	UNESCO ASPnet: Collaborative action research on the role of schools in achieving SDGs in Asia-Pacific というプロジェクトに参加し、タイ、ベトナムの学校と気仙沼市の階上中学校との国際交流を促進した。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	「2022 年度ユネスコスクール東北ブロック大会」の開催を学内で行っている。また「国際理解教育概論」などでユネスコスクールについて学ぶ時間を設定している。しかし、大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができたとはいえない。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスールにかかわる教育を行うことができた。	学部必修科目「学校防災教育基礎」、「総合的な学習の時間の指導法」選択科目「国際理解教育概論」「多文化教育総合演習」教職大学院専門高度化基盤科目「地域協働と学校づくり」選択科目「グローカル教育課題」などで、ユネスコスクールの研究成果を取り込みながら、ESD/SDGs についての教育を行っている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）の主催する「変容を捉え、変容につながる評価のモデル ～SDGs 時代を生きる学校教員からの提案～」に参加させていただいたことや、ESD 関係の科学研究費を獲得したことにより、教育評価に関する調査研究活動を行うことができた。
	4. 自由記述	